

# 思いを伝える

アドバンス・ケア・プランニングのすすめ

②

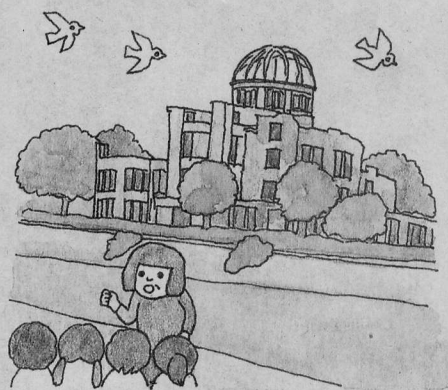
12歳の時に広島市内で被爆し、今も顔や首、そして腕にケロイドが残る彼女は、今年81歳になる。

デザイナーを志して、まだ1ドルが360円だった昭和30年代前半に、両親の勧めで単身フランスに渡り、世界に羽ばたいた。だから彼女の人生の支えになつたのは、両親の恩に報いなければという気持ちだという。独身を通し、数年前から広島を訪れる学生相手に「被爆の語り部」として活動している。

きちょうめんな上に使命感が強いこともあって「つい無理をしがちになる」と自認する彼女が肺炎で入院したのは、クリスマスイブの夜だった。幸い、治療が功を奏して7日後に退院となったが、それ以後、彼女は僕の外来を受診するようになって

今回の担当医 有田健一 先生

## 苦しみ取って安らかに



イラスト・梶川ゆう子

た。

「これまでは根性で生きてきたの。でも無理をしない方がいい年なんだと、あらためて思いました。努力をしても元気で

「これまでは根性で生きてきたの。でも無理をしない方がいい年なんだと、あらためて思いました。努力をしても元気で

### 希望代弁する代理人決めて

彼女のように「もしも  
の時」の対応を伝えるこ  
とは、家族にとつても、  
医療者にとつても、緊急  
時の重要な手掛かりとな  
る。さらに可能であれば、  
その人の希望や思いに基  
づいて、どんな医療を受

### ポイント……

けるかを代わりに選択す  
る「代理人」を決めてお  
いてほしい。広島県地域  
保健対策協議会が作った  
ACPの手引には「あなた  
の代わりに意思決定を  
してくれる人を選びまし  
よう」と記されている。

かけました」と、冗談めかして  
言う。

その彼女は「7年後に母の五  
十回忌をやらなければ」と、将来  
の目標を口にしながらも、もし  
もの時のこと「このことも考える  
という。

「3日くらいは生きると思う  
の。その間苦しみは取って安ら  
かに眠らせてもらいたいわ。葬  
儀はいらないから出身地に散骨  
してほしいと、妹とおいに告げ  
たの」。そう話す彼女に、僕が

意地悪く「それで妹やおいほど

う答えたの」と尋ねると、「フ  
ーンと言ったきり何も言わない  
の。でも分かっているでしょ、  
きつ」と、いささか一方的で、  
心もとなない意思の伝達である。  
滑舌もはっきりと前向きに生  
きる彼女は「いつも周りの人に  
感謝して、あとわずかな人生だ  
けど自分らしく生きたいわ」と  
僕に告げた。社会とつながって  
生きてきた彼女は今も輝いてい  
る。

(広島赤十字・原爆病院呼吸器  
科部長 〓広島市)